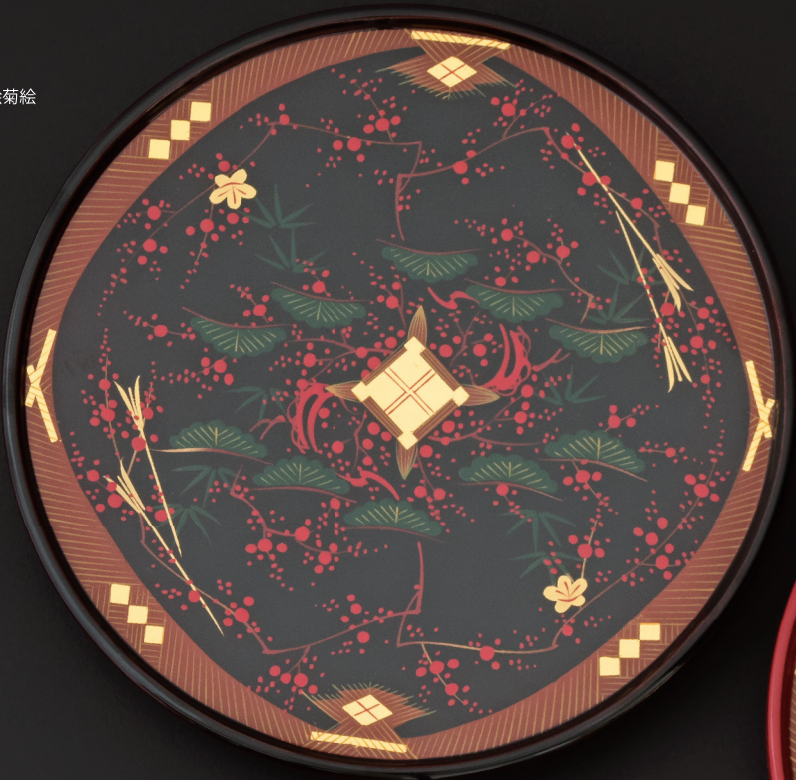


ものづくりの国 会津

会津漆器

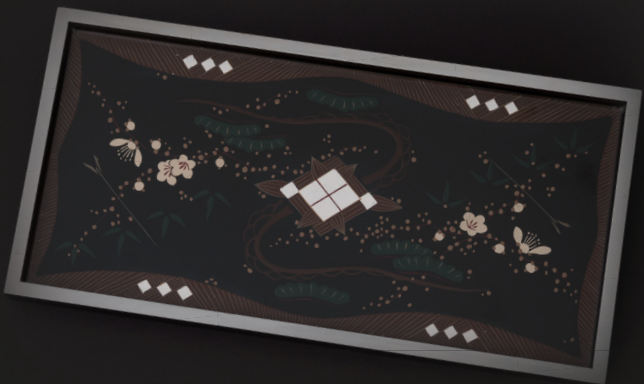
室町時代、この地方で力のあった一族が漆の木を植えることを推奨したのが始まり。安土桃山時代に藩主・蒲生氏郷が産業として推奨したことにより産業の礎が築かれ、歴史的に津軽塗や輪島塗よりも早く発展をとげました。江戸時代、会津塗の職人たちは、蒔絵に金粉などを使用する技術を取り入れることで会津は全国でも主要な漆器産地となっていました。



6.0 足つき丸皿
溜 会津絵松竹梅・朱 会津絵菊絵
各 18,000 円
[福西惣兵衛商店]

会津絵

名前のとおり会津塗独特のデザインです。松竹梅に破魔矢・糸車を配した伝統的な吉祥絵を漆絵で描き上げます。繊細優雅な筆致であてやかな色調が特徴です。描かれる松には常に変わらぬ清節、竹は風雪に耐えて平安、梅は寒さの中の清香を意味していると言われており、会津絵は多分に幸福への願いが込められていたと思われています。



Silver & Gold 会津絵長角トレー 40,000 円 [遠藤正商店]

福島県には漆器、木工品、

織物、和紙など40品目の伝統工芸品があり、中でも会津には国の指定を受けている伝統的工芸品が4品目あり（会津塗、会津本郷焼、奥会津編み組細工、奥会津昭和からむし織）、地域の主要産業として栄えてきました。長い時間を超え守り継がれてきた技術は、時代や暮らしに寄り添い工夫を重ねながら次世代に継承されています。

今回は、会津若松市で毎年10月に開催しています「会津ブランドものづくりフェア」の展示作品を中心にその魅力をご紹介します。